

第35回
年末恒例

桐ヶ丘バザー

2011年12月4日(日)
午前10時30分～午後2時
桐ヶ丘郷小学校

- ◎ ことしも年末バザーの季節になりました。35年間、毎年つづき、地域の恒例行事になっています。そして、毎回、被災者支援などのテーマをかかげ、三宅島の皆さんとの交流もつづけています。ことしも楽しみにして下さい。
- ◎ 今回は、アジバとユリに加えて、トビウオのすり身が届きます。さらに、南相馬の農家が育てたパンジーも並びます。(現在、山形県上山町に避難中)

東日本被災地復興支援



桐ヶ丘年末バザー実行委員会
Tel・Fax (3905)0970
さがらとしこ事務所内

被爆者の苦しみ再現させるな 晩発性がん引き起こす内部被ばく

東京電力福島第1原発の事故による放射能汚染は、都民に大きな不安をもたらしています。拍車をかけているのが、放射能による健康被害を監視する政府や行政の姿勢です。都内では保護者を中心に学校給食食材に対する内部被ばくへの不安が高まっています。原爆症認定集団訴訟で証人として立ち、内部被ばくの被害を認めさせた琉球大学の矢ヶ崎克馬名誉教授に話を聞きました。(聞き手・長沢宏幸)



琉球大学
矢ヶ崎 克馬 名誉教授

内部被ばくの怖さは、どこにあるのでしょうか。そもそも放射能とは、放射線を出す能力のことです。原子核から出てくるヒュームが放射線で、エネルギー

「がものすごい高く、分子を構成する原子のつながり」を切断してしまっています。放射線にはアルファ線、ベータ線、ガンマ線の3種類があります。放射性物質は、

放射能から
守る



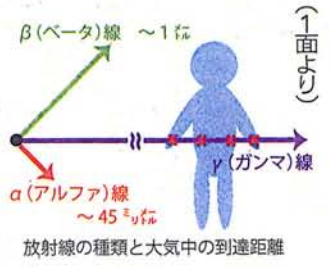
2011.11.25.No.1022.
ご相談はお気軽に
TEL とも 3905-0970
FAX さがらとしこ事務所
赤羽北3-23-17
(バス停「赤羽北3丁目」、メガシティ近く)
日本共産党議員団
区役所内 3908-7144
<http://www.kitanet.no.jp/~kyoukita/>



11月21日、区長に「日本共産党の新年度予算案要約事項」を提出しました。

11/25(金)10時半、さがら本会議場をおこないます。

矢ヶ崎克馬氏に聞く



放射線の種類と大気中の到達距離

政府による被ばく線量限度の引き上げは国民の命を切り捨てる行為

が、内部被ばくの場合、密集した分子切断を受ける部分とあまり被ばくしない部分が生じ、密集した分子切断を受ける部分は、大変高い健康リスクに直結します。変成されて不安定となったDNAが子孫に伝わることもあります。

遺伝子以外の細胞分子を切断する場合も、高い健康リスクを負います。実際、被爆者1年間継続する被ばく線量は、一般市民と比べ、高血圧や視覚障害などの健康障害に苦しんでいる人が数倍に及んでいます。

そもそもICRP基準の考え方は、人に対する健康と経済的・社会的要因の両立を考慮して限度値が設定されており、人間の健康が第一に考えられていたものではありませ

内部被ばくの場合は、密に分子切断が行われるので、DNAの鎖が2本とも切断され、生物学的修復作用の働きで間違つて再結合する可能性が増大します。これを変成といいますが、何十回も変成が繰り返されると、がんが発生すると言われます(晩発性がん)。

放射線は放射性原子が安定に至るまで、ひとつの原子が何回も放射線を出し続け、しかも微粒子に含まれるすべての原子からの放射線種が被ばくに関与するので、外部被ばくより危険性がずっと高いものです。

体内に入った放射性物質から放射線が放射されることから放射線が放射される被ばくします。これが内部被ばくです。外部被ばくはおおむねガンマ線だけに被ばくするのに対し、内部被ばくでは、飛び距離は短い物質との相互作用が強いアルファ線やベータ線が体内の組織が被ばくするのになります(図参照)。

放射能の影響を受けやすい幼児や学童、妊婦、病人など「被ばく弱者」の被ばくを最小限にする施策が求められています。検査せずに売ったり食べたりしないこと、汚染食品は政府が買い上げ、生産者補償をすること、汚染のない安心して食べられる食料を政府の責任で調達すること、汚染セロの地域で食料大増産を行うことなど、あらゆる知恵を集中し、政府の責任でただちに実行すべきです。なお、海にはかつてない大量汚染がもたらされており、海産物の安全管理には最大限の体制をつくらべきです。

政府は防止にあらゆる手だてを 隠ぺいされた内部被ばく

ん。原子力発電推進上の都合と、人の健康をてんびんにかけたものです。

内部被ばくを軽視する背景をたどると、そこにはアメリカの核戦略があります。広島・長崎に原爆を投下し、核による世界戦略を進めたアメリカは、核兵器の残虐性を低く見せようとして「通常兵器と同じ。放射線による長期にわたる被害はなし」という虚像を描くために、内部被ばくを隠ぺいする戦略を強行しました。

アメリカは日本を占領していた時代に、科学者を動員し被ばくの実態を歪め、放射性降下物はなかった、初期放射線だけが市民を被ばくさせた」と科学的に粉飾させ、アメリカの国内防護委員会をICRP構成に利用し、被ばく線量評価の物差しであるICRP

基準から内部被ばくを見えなくさせたのです。そのため多くの疾病に苦しむ被爆者は、「あなたは放射線には被ばくしていません」と言い続けられました。

原爆症認定集団訴訟では、すべての判決で内部被ばくが認められましたが、ICRPに従う国や多くの機関、科学者は、この結果を受け入れていません。アメリカ核戦略体制をいまだに守ろうとしているのです。それが日本の悲劇です。現に進行している福島原発事故による被ばくの見方は大きく歪められています。被爆者が味わった苦しみを福島で再現させてはいけません。

一内閣府食品安全委員会は、食品からの被ばく量で健康に影響が出るのは、生涯の累積線量でおおよそ100mSv

以上が目安との最終答申をまとめました。どうお考えですか。

原子力発電会社の都合だけを優先させ、会社と国の責任を軽減させる目的の巨大数値です。食品安全委は、その理由に100mSv未満の線量による健康影響は科学的な知見がないことをあげています。しかしICRP論者が、100mSv以下の犠牲者を切り捨ててデータにしなかった結果でしかなく、「影響がない」とは違います。

リスクは線量が低くても存在します。これはICRPですら言っていることですが、政府は「限度値以下なら安全」という宣伝を繰り返しています。これは、被害を加速させるだけです。

政府は国民の被ばく回避にこそ責任があります。とくに

▼矢ヶ崎克馬(やがさき・かつま)氏 1943年東京生まれ。広島大学理学部大学院卒。琉球大学理学部教授。著書に「隠された被曝」「新日本出版「力学入門」(裳華房)など

矢ヶ崎克馬先生の著書です。お申込みは...
ヤマガタ事務所

隠された被曝

矢ヶ崎克馬 Takanaki Kikuma

内部被曝の恐ろしさ!

たった100万分の1グラムで急性症状が...

毎日出版 定価 単行1200円(税別)

小出裕章 矢ヶ崎克馬

3. 11原発事故を語る

著者の「内部被曝の危険」(矢ヶ崎克馬)